

## 事務事業評価（事前評価）実施結果（平成 29 年度新規要望事業等）

### 1 事前評価の目的

翌年度（平成 29 年度）に新たに予算要求しようとする事業及び継続事業で拡充・増額して予算要求しようとする事業について、「妥当性」「効率性」「有効性」「貢献度」を踏まえた多角的かつ総合的な視点で事前に検証し、内容の精査や優先度の調整等を図ることをもって、効率的・効果的な行政運営を確保する。

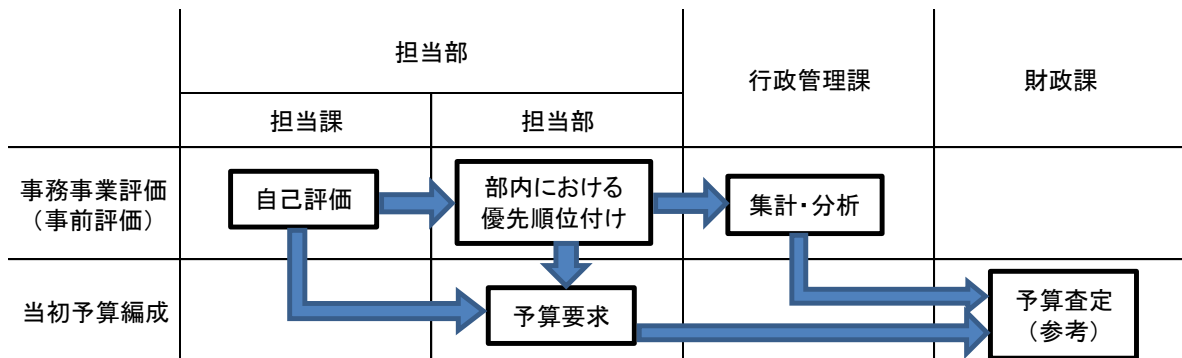
### 2 実施内容等

事前評価の実施時期・内容と実施手順は図表 1 及び 2 のとおり。まず担当課自身において、対象とする事業ごとに「妥当性」「効率性」「有効性」「貢献度」の各視点(図表 3 参照)等からの評価を行った上、部内における優先順位付けを実施。その後、それらを取りまとめた上で、その結果を評価表と併せて平成 29 年度当初予算編成の参考資料として活用した。

図表 1：【実施時期と実施内容】（平成 28 年度）

実施時期	実施内容
10 月下旬 } 11 月中旬	<ul style="list-style-type: none"> <li>各担当部において評価表を作成し、行政管理課へ提出</li> <li>各担当部において評価内容を踏まえて予算要求</li> </ul>
11 月中旬 }	行政管理課で各評価結果を集計・分析の上、財政課に情報として提供。財政課は、これを平成 29 年度当初予算編成の参考資料として活用

図表 2：【実施手順】



図表 3：【評価の視点】

視 点	
妥当性	市が担うことの妥当性が高いか
効率性	最少の資源投入量で最大の効果が出るか
有効性	事業の成果が出るか
貢献度	上位にある施策の実現（又は目的達成）に貢献するか

### 3 評価結果の予算への反映状況等

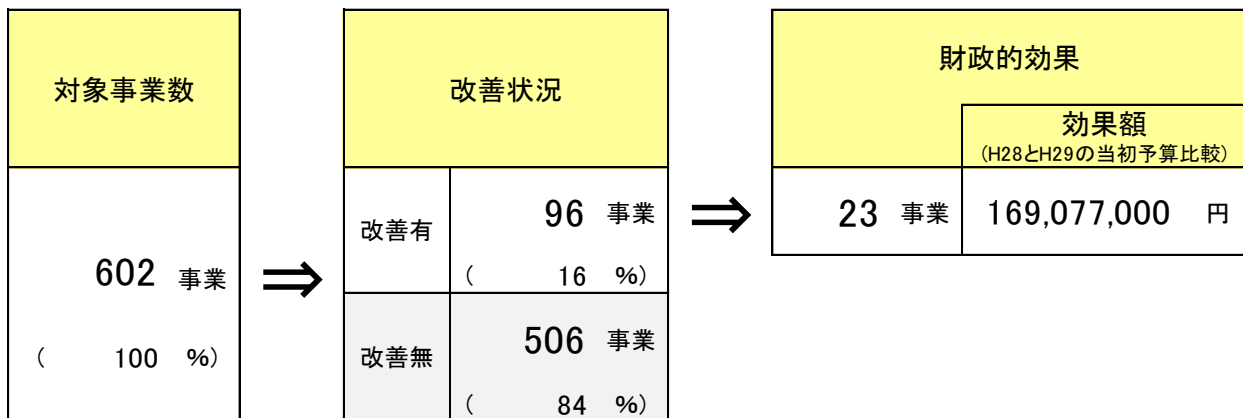
事前評価を踏まえた部ごとの優先順位付け等を経て行った、平成 29 年度当初予算への反映状況は図表 4 のとおりである。厳しい財政状況等をふまえて各担当部における精査を経ての要望を、全体調整によってさらに厳選して絞り込んだ。

今後も限られた予算の中で市民ニーズに適切に対応していくため、事前評価、事後評価及び外部評価を引き続き活用し、既存事業の見直し等と併せた事業の優先度の精査を推進していく必要がある。

図表 4：【事業の優先順位と予算編成結果】

優先順位	要望取組数…(1)	予算措置取組数…(2)	予算措置率…(2)/(1)×100
1 位	1 4 取組	1 2 取組	85. 71%
2 位	1 1 取組	6 取組	54. 55%
3 位	1 0 取組	7 取組	70. 00%
4 位以下	4 7 取組	3 2 取組	68. 09%
計	8 2 取組	5 7 取組	69. 51%

#### 参考：平成 28 年度行政評価の実施による効果



※財政的効果には次のものは含まない。

- ・ 法律の改廃に伴う当然の増収や歳出減
- ・ 事業の統合や組換え等を行ったが、実質的には増収や歳出減に至っていないもの
- ・ 施設整備事業など事業終期の到来等に伴う当然の歳出減
- ・ 事業の見直しによる人件費の削減分